柘植地域
まちづくりだより
第165号

発行　柘植地域まちづくり協議会事務局
（柘植地区市民センター内）
伊賀市柘植町一〇六四七番地
〒五一九-一四〇二
電話　四五・八八八〇　ＦＡＸ　四五・八八八三

発行日　二〇一六(平成二十八)年五月一日（日）

新年度スタート・・・始めよう、アクション

会長に就任した阪井則行代表（右）、副会長となった中川善博区長部会長（中）と岡﨑修美生活環境部会長（左）

平成28年度の定期総会が、４月16日（土）午後８時から、市民センターで行われました。（総会構成員１８５名中、出席者１０２名、委任状５５）

第１号議案では、昨年度当初より不在であった会長職と、梅川正彦副会長の後任等の推薦が選考委員から提案され、その選出と承認が行われました。

結果、上の写真のように、阪井副会長（代表）が会長に、阪井副会長の後を岡﨑生活環境部会長が副会長を兼務、そして梅川副会長に替わって区長部会長となった中川区長部会長が副会長に就任することが承認されました。（就任あいさつ４ページ）

第２号議案では昨年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて第３号議案では今年度の事業計画案・予算案が審議されました。

昨年度決算報告ならびに今年度の予算案を説明する栗本悦子会計（上写真）

議長には松山芳博さん（小杉区長）が選出され、これからの柘植地域に関わる重要な課題を含んだ議事をスムーズに運んでいただきました。

なお来賓として、岡本栄市長（写真左）、森岡昭二市議会議員（写真中央）、ならびに松本浩典伊賀支所長（写真右）にご臨席いただきました。

5月8日(日) 9時50分スタート
余野公園つつじ祭

開催時間は９時50分～14時まで（雨天決行）です。

公園内には各区をはじめ42団体の出店があり、ステージでは都美恵太鼓はじめ11団体の出演が予定されております。多数のご来園をお待ちしております。

なお駐車場が限られておりますので、できましたら「ふるさと会館いが」からのシャトルバスをご利用下さい。

※詳しくは、別紙案内をご覧ください。

余野公園保勝会

部会の役割と事業実施

これまでややもすると部会が事業の実施主体と見られがちでしたが、部会は『まちづくり計画』にあるそれぞれの分野の方向性を示す核であり、分野ごとの観点から必要な事業を毎年設定し、総会で承認され、それぞれに適切な実施主体が事業を進めていくものです。

言い換えれば、部会が計画した各事業は、部会による事業というよりもむしろ、『まちづくり計画』に基づいてまちづくり協議会が必要と認めた事業であり、計画を立てた部会が実施主体になる場合もあれば、「この指止まれ」方式による実行委員会が実施主体となる場合もあります。

今年度の事業計画

今年度事業を計画するにあたっては、現在の柘植地域の実情をふまえ、将来にわたって、いま柘植地域にどのような事業が必要かを市行政の動向なども参考に、各部会・運営委員会で検討しました。

各部会ならびに事務局では、それぞれの分野（分権・自治、人権・同和、健康福祉、生活・環境、教育・文化、産業・交流）における事業実績・成果と残された課題をふまえて計画づくりをしました。

その結果、まちづくり協議会総体として、今年度事業を進める重点として、

1　現行『まちづくり計画』の評価と新『まちづくり計画』の策定
2　跡地利活用の検討
3　将来の様々な状況に向けての基盤整備（体制面や資金面）

の3点を取り上げています。

各部会では、まず現行『まちづくり計画』の評価と新『まちづくり計画』策定に向けた原案作成という課題に取組みます。それと並行して、今年度の必要な事業を各事業予算の下で、実施主体が取組むこととなります。繰り返しになりますが、事業の実施主体は、部会が受け持つ事業もあれば実行委員会を設置して行なうものもあります。

なお、実行委員会は「この指とまれ」方式で、部会員（総会構成者）に限らず活動に参加していただいています。

以下に、今年度の事業名を示します。

詳しくは、定期総会議案書をご覧ください。
※残部がありますのでご入り用の方は事務局までお申し出ください。

まちづくり協議会の運営に関わる事業

❶現行『まちづくり計画』の評価事業
❷新『まちづくり計画』策定事業
❸跡地の利活用に関する検討事業
❹広報活動に関する事業
❺研修事業
❻その他必要な事業
❼事務局運営事業
❽積立金会計へ戻入

❸については、公募委員も含めた実行委員会を近日中に設置し取組みます。他は、運営委員会を中心に取り組みます。

柘植地域各区に関わる事業

❶区長部会活動
❷各区活動（地区業務・地区配布業務）

すべて、区長部会として取り組みます。

人権・同和施策の推進に関わる事業

❶柘植地域人権啓発合同事業
①合同フィールドワーク（近隣）の実施
②人権啓発映画一斉上映会の実施
③合同フィールドワーク（遠方）の実施
❷柘植地域人権学習・懇談・交流事業
❸柘植地域住民への広報・研修事業
❹部会員および住民への啓発事業

❶は人権啓発合同事業実行委員会が実施主体です。❷❸❹は人権同和部会が取り組みます。

健康・福祉の推進に関わる事業

❶健康づくり推進事業
❷柘植地域福祉ネットワークの設立事業
❸ユニバーサルデザインのまちづくり事業
❹柘植駅（公共交通）を核にしたまちづくり事業

❶は健康の駅長・スポーツ推進委員を含んだ健康福祉部会で、❷❸は健康福祉部会で、❹は、柘植駅を核とした公共交通のあり方検討委員会が実施します。

生活・環境の再生に関わる事業

❶自然環境保全活動事業
❷都美恵の里花いっぱい運動事業
❸環境美化活動事業（ごみ０作戦）
❹河川等の環境整備事業
❺地域の防犯対策
❻柘植地域自主防災合同事業

❶～❹は、区長部会と協力して生活環境部会が実施します。❺は駐在所とも連携して実施します。❻については、自主防災実行委員会が実施します。

教育・文化の充実に関わる事業

❶伊賀の国柘植の斎王群行事業
❷地域イベントの検討
❸市民センター活動事業
❹夏休みこどもの遊び事業
❺学校教育、家庭教育、生涯学習への支援事業

❶は斎王群行実行委員会、❷❸❹は教育文化部会で、❺は教育ボランティアが事業を進めます。

産業・交流の促進に関わる事業

❶つつじ祭への協力事業
❷特産品の創出事業
❸企業誘致推進事業
❹国際交流促進事業
❺柘植駅周辺環境整備事業

❶はまちづくり協議会総体として運営委員会が取り組みます。❷は特産品創出事業実行委員会が、❹は国際交流実行委員会、❸❺は産業交流部会が取り組みます。

女性参画の促進に関わる事業

❶つげのまちに賑わいを事業
❷女性の地域活動推進事業
❸まちづくり協議会の各種事業への参画と支援

❶❷❸すべて、女性部会が実施主体です。

３月１９日（土）、ゆめぽりすセンターで、地域活動支援事業の審査会があり、柘植のまち協は9団体中2位の得点をいただきました。今年度は、市より補助金50万円の支援を受け、別会計で取組みを進めます。

事業提案した各部会長と実行委員会のみなさん

１段目左から、橋本人権同和部会長、柘植健康福祉部会長、岡﨑生活環境部会長、西田教育文化部会長、佐藤産業交流部会長、岩倉女性部会長、２段目左から「柘植駅を核とした公共交通のあり方検討委員会」の堀井委員長、続いて「自主防災実行委員会」の服部事務局長です。おつかれさまでした。

一人ひとりが生き生きと　ふれあい支えあい　暮らそう　みんなのまち　柘植

会長就任あいさつ

阪井　則行

このたびの総会にて会長に推薦・承認いただきました阪井です。私は肩書が「代表」から「会長」に変わりましたが、任務はそのままで、役員以下みんなで協力して、今まで以上に気を引き締めて頑張って参りたいと思っております。

言うまでもなく、まちづく協議会は市行政と地域住民との太いパイプ役となって、皆さんの声を聴きながら、少子高齢化時代にマッチした方向性を見出し行動していかなければなりません。

今年の活動は総会資料の通りですが、その中で特に「まちづくり計画の見直しと改定」「保育園跡地の利活用検討」「将来にわたり各部会活動・各実行委員会による充実した活動(事業)ができる基盤整備」に重点を置き、公募や有識者の力も借りながら進めて参りたいと思っております。

また、『まちづくりだより』には、いろんな活動を随時掲載し報告しておりますのでぜひ熟読をお願い致します。

最後に、まちづくり協議会の各種活動に、これまで同様、皆様方のご支援ご協力の程をよろしくお願い致します。

第1回男の健康料理教室開催

４月９日（土）午前、今年度最初の男の健康料理教室が保健福祉センターで開催されました。新しく４名の方の応募があり、一層賑やかになりました。

今年度から、新たに食生活改善推進員の宮島千恵子さん・梅川晴美さんに指導いただくことになりました。

また、２名の女性部会員の方にも手伝って頂き楽しく開催出来ました。

今回の料理は、骨粗鬆症予防のための料理、乳製品を使った献立で、すべての料理に乳製品を使っていました。

鶏肉のカルボナーラソース、牛乳を使ったトマトとレタスの味噌汁、サツマイモ寒天の３種です。

※レシピのご入り用の方は、協議会事務局まで

◎事務局だより◎

▼４月14日の定期総会には大勢のみなさんがご参加いただき諸議案が審議され無事に終了することができました。▼１年間空席であった会長職も決まり、運営体制が確立したことにホッとしているところです。▼3ページに写真で示した「特産品創出事業」は、平成28年度地域活動支援事業「コミュニティビジネス」の審査で好成績を得て、市の支援を受けて取り組むことになりました。▼ちなみに、柘植地域まちづくり協議会としては今回で４回目の採用をいただき、過去には3回の実績があります。

平成19年度　柘植地域案内板設置事業
平成20年度　伊賀の国・柘植の斎王群行」事業
平成22年度　自主防災組織並びに避難所運営組織・マニュアル策定事業

▼前号に続き、「住民アンケートの集計結果」を別紙（5・6ページ）の形でお届けしました。▼現在、伊賀市という行政単位の一員となった私たちは、広い視野からの捉え方が必要である半面、生活者として身近な視点から公共施設の行く末を考えるのは至極当然です。▼合意形成のためには、時間をかけていろいろと意見を出し合う時間が必要ですが、時間に余裕がないのも事実です。将来に「しこり」を残さないよう、ぜひとも住民の手で進めていきましょう。▼５月８日はつつじ祭です。楽しみつつも将来のことを話題に出してみてください。▼５月14日には、午後２時と夜間８時にアンケート結果をふまえたサロンを開きます。ぜひご参加ください。

（西田方計）

特集 まちづくり住民アンケート結果(第2回)

前号（164号）に続いて、『まちづくり住民アンケート』の結果をお届けします。柘植地域１６歳以上の約3000人を対象に、各区を通じて配布し、約1500枚を回収しました。この結果は私たち柘植地域住民の意識傾向を把握する資料として、『まちづくり計画』改定の基礎資料となります。

回収した約1500枚のうち、量の多少や内容にかかわらず、意見が記述されていたのは、次の枚数でした。

設問4 保育園跡地の活用	約400枚(約27%)
設問5 柘植公民館(歴史民俗資料館)廃止や廃止後	約310枚(約21%)
設問6 柘植中学校の統合ありは統合後(跡地)	約380枚(約26%)
設問7 つつじ祭のあり方	約370枚(約25%)
設問8 今後のまちづくりの方向性	約400枚(約27%)

アンケート結果を分析する前に、共有しておきたいこと

平成25年６月に出された『伊賀市公共施設白書』に、柘植地域において運営上課題がある主な施設として挙げられているのは、①柘植中学校、②保育施設（柘植保育園・第２保育園）、③柘植公民館でした。

その後、『伊賀市公共施設最適化計画』（平成27年３月）には、第１期（平成27年度から31年度までの間）のアクションプランとして、上記③の「柘植公民館」は耐震性が無いために廃止（機能は継続）され、「ふるさと会館いが」への機能集約することがモデルケースとして記載されています。また、「ふるさと会館いが」は、複合施設として「伊賀支所」となることが示されています。

（参考）柘植公民館を継続する場合の改修費は２.２億円、立替え費は３.６億円と示されています。

また、②の保育施設の２園に関しては、昨年７月に、市こども家庭課(当時)よりまち協に対して統合についての打診がありました。統合に向けては、『伊賀市保育所(園）のあり方に関する提言書』(平成21年11月）の考えがふまえられていたかとは思いますが、結果、「旧柘植保育園」閉園、今年度より「統合園・柘植保育園」がスタートしたのは周知のとおりです。

一方、つつじ祭については、例年、事業予算は約２５０万円で開催されています。伊賀市補助金の予算に対する比率は昨年度「８分の７」（約220万円）でしたが、今年度は「８分の６」（約187万円）となり、来年度は「８分の５」（約156万円)、その次の年以降は「８分の４（50%)」（約125万円）となります。

すなわち、不足分はなんらかの収入がなければ赤字となります。今年の場合は、いがまち観光振興会から助成金をいただくことで収支を合わすことになっていますが、将来的には財源不足は明らかであり、来年度以降、多額の助成金を期待することは困難であると考えなければなりません。

設問４　保育園跡地の活用についてのご意見　約400枚の回答

主な意見（数字は枚数）は以下の通りです。ただし、１枚の回答用紙に複数の意見をお書きになられている場合も多いため合計は合いません。数字にはあまりこだわらずに、「だいたいの傾向」ということでご覧いただければ幸いです。（以下、同じ）

①学童の施設に（110）　②交流、サークル活動、まちづくり協議会での活動の場に（110）
③駐車場に（50）　④公園に（35）　⑤介護関連施設に（30）　⑥民俗資料館に（20）
その他、神社が活用、店舗・直売所、図書室、避難所、倉庫、防災拠点、宿泊施設、など

あるいは、建物を利用するのではなく撤去して更地化（20）、売却や企業への貸付などの意見もあります。その主な理由には、柘植地域の後世に負の遺産（維持管理）を残さないようにとの思いが書かれていました。

設問５　柘植公民館（歴史民俗資料館）廃止や廃止後についてのご意見　約310枚の回答

廃止ではなく「現状を残してほしい」という意見が約90ありました。これらを「まち協が譲り受けることを望んでいる」と解釈するとなると、耐震化などの改修には何億円もの資金(前掲)が必要となり現状では不可能と思われます。

一方、そもそも立地が不便であるという意見もあり、跡地の姿として、眺めの良さを活かして、公園（25）駐車場（10）撤去（70）という意見がありました。

また歴史民俗資料資料館の機能は、「別のところでよいので残したい」という意見や「資料だけでも移設して保存してほしい」という意見が約30ありました。具体的に「旧柘植保育園舎」とした意見もありました。

設問６　柘植中学校の統合あるいは統合後(跡地)についてのご意見　約380枚の回答

「早急に統合すべき」ないしは「すでに遅い」という意見が約100。「現状を踏まえて統合はやむを得ない」という意見が約60。統合にはふれずに、校舎の跡地利用のみを書いた意見が約135ありました。これらを「統合案」とすると、合計が約300弱（78%）となります。

一方、「現状のままで（統合には反対)」という意見が、約55（約15%）ありました。その他疑問などを含む意見が、約30（約8%）でした。

設問７　つつじ祭りのあり方についてのご意見　約370枚の回答

「現行の祭を維持したい」という意見が、約130（約35%)。「祭自体をやめよう」という意見が、約30（約8%)。つつじ祭を続けるにしても「課題を解決していく必要がある」とした意見が、約150（約40%）ありました。課題解決の具体的な方法として、もっと祭りをＰＲする（約10%)、メインであるツツジの育成・養生を充実させる（約15%)、催しの内容を変更工夫する（約40%)、駐車場の問題を解消する（約70%)、予算を実状に合わせて修正する（約30%）などが挙げられています。その他疑問などが約60（約15%）ありました。

設問８　今後のまちづくりの方向性などについてのご意見　約400枚の回答

この設問には、小さい話から大きい話まで、まさに多種多様のご回答をいただきました。この紙面には到底網羅不可能ですし、要約整理する力量も事務局にはなく独断で数件の意見を引用させていただきました。

住民活動に無理のないように・・・

区とまち協の二重の負担がある。イベントもたくさんあり交流や団結といった面ではよいが、区でも若い人が少なく、これまで同様の行事をするにも限界。それより草刈やゴミ広い等、生活に密着した取り組みに特化し、負担感のない事業を望む。スクラップアンドビルドで区の事業もまち協へ統合してはどうか。

柘植地域の特性を活かして・・・

都会の待機児童問題に悩む人々を呼び込み、地域の若年化を目指すべきだ。柘植駅から京都まで電車が出ており通勤等にも適している。琵琶湖線沿線を拠点に働く若者層を狙ってみては？

将来を考え、人口増加策と人材の育成、資金確保を・・・

・次の担い手がいないので、何とかして若い人が地元に残ってくれるしくみ作りが大切。年寄りが増えるのは、どこの地域も同じ。子どもが減るのもしょうがない事かも知れませんが増やすような対策を考えていかないといけない。子どもたちが地元に残りたいと思ってもらえる地域づくりが出来るといいと思う。

・柘植に嫁いで40年、こんなに空家が多くなったのは、若者の転出、そして少子化。それをくい止めることは、もはや大変難しい。「住んでみたいと思う町とは？」一人ひとりが考えることが大切だ。高齢者になったときの一人暮らしのしやすさ、若者たちには子育てしやすい環境など望みます。

・将来を担っていく人材育成ということがどの分野においても重要。地域はもちろん親の姿、倫理観の必要性、人間力を高めていく教育環境の必要性を思う。公共施設については、まちづくり協議会が活用するとなると維持管理の資金がかなり必要。資金をどう確保するかが課題、早急な検討が必要。今後まちづくり協議会は、市⇔まちづくり協議会⇔区との関係により重要な組織になる。事務局を含む執行体制作りを早急に。